

VI 前計画の成果と課題

- 1 前計画の成果と課題
- 2 前計画の施策体系



ふじさわバランストリオ

1 前計画の成果と課題

第2次藤沢市食育推進計画では、食育の4つの具体的な目標に向けた施策の成果や達成度を把握するため、目安となる指標及び数値目標を18項目にわたり設定し、事業に取り組んできました。

各指標及び数値目標に対する達成状況や様々な取組の成果を踏まえ、第2次藤沢市食育推進計画の成果と課題について整理します。

指標項目ごとの達成状況及び成果と課題

【達成状況】

A：目標達成	8
B：改善	13
C：変化なし又は悪化	22
D：判定不能	1

目標1 健康に生活するための食習慣をつくる

指標項目	対象者	現状値 (H25年度)	最終評価 (R1年度)		目標値 (R1年度)	
			実績値	達成状況		
①一日あたりの平均野菜摂取量	20歳以上	309g(注1)	-	D	350g	
②朝食を食べる市民を増やす	3歳6ヶ月児	96.5%	95.2%	C	100%に 近づける	
	小学校6年生	94.6%	94.1%	C		
	中学2年生	91.2%	93.6%	B		
	20～39歳	79.5%	83.5%	B	85%	
	40～64歳	87.3%	88.9%	B	90%	
	65歳以上	94.2%	95.0%	B	100%に 近づける	
	③主食・主菜・副菜のそろった食事を食べている (2食以上) 市民を増やす	3歳6ヶ月児	74.2%	81.1%	A	80%
		小学校6年生	73.5%	75.2%	B	
中学2年生		72.6%	74.6%	B		
20～39歳		63.1%	63.2%	B		
40～64歳	78.0%	75.1%	C			
	65歳以上	91.5%	88.4%	C	100%に 近づける	
④食事を家族や友人と食べる(共食・きょうしょく) 市民を増やす	3歳6ヶ月児	89.3%	86.0%	C	100%に 近づける	
	小学校6年生	74.9%	74.7%	C	90%	
	中学2年生	62.0%	69.9%	B		
	20～39歳	81.0%	84.7%	B		
	40～64歳	82.4%	80.4%	C		
	65歳以上	79.0%	70.1%	C		
⑤よく噛んで味わって食べる市民を増やす	小学校6年生	52.0%	67.7%	B	80%	
	中学2年生	49.2%	63.3%	B		
	20～39歳	49.1%	58.3%	B		
	40～64歳	59.6%	57.0%	C		
	65歳以上	76.5%	72.3%	C		
⑥食事バランスガイドを知っている市民を増やす	20歳以上	17.2%	12.3%	C	50%	

(注1) 平成24年度は、藤沢市は国民健康・栄養調査の調査対象とならなかったため、摂取量の把握ができず、中間評価(平成23年度)の値とした。

〈成果と課題〉

- ・野菜摂取量については、策定時と値の取り方が変わり、経年比較や達成状況の評価ができませんでしたが、成人の世代別にみると、20～30歳代男性で他の世代より野菜摂取量が少なく、また、BMIが高くなるほど野菜摂取量が少ない傾向がみられました。
- ・主食・主菜・副菜のそろった食事を2食以上食べているかについては、3歳6か月児は「そろっている」割合が経年で増えており、目標を達成しています。
- ・朝食習慣のある市民の割合については、大きな変化はありませんでした。20～30歳代男性が全世代の中で最も低くなっています。
- ・野菜摂取と朝食欠食について、特に若い世代が自ら食生活の改善に意識を持って具体的に行動できるよう、普及啓発等を図ることが必要です。
- ・よく噛んで味わって食べるについては、小学生、中学生で改善していますが、成人では、知識があっても実践につなげるのが難しいことが伺えます。壮年期男性に肥満傾向があることから、早食い等の食習慣を改善するために、引き続きよく噛む食べ方の啓発が必要です。

目標2 市民が主役となって食育を推進する

指標項目	対象者	現状値 (H25年度)	最終評価 (R1年度)		目標値 (R1年度)
			実績値	達成状況	
⑦食育に関心を持っている市民を増やす	20～39歳	81.1%	75.6%	C	90%以上
	40～64歳	83.7%	78.1%	C	
	65歳以上	87.3%	80.1%	C	
⑧食品の安全性について基礎的な知識を持っている市民を増やす	20～39歳	55.2%	51.2%	C	85%
	40～64歳	68.1%	67.3%	C	
	65歳以上	77.4%	79.7%	B	
⑨食育の推進に関するボランティアを増やす(注2)		144人	161人	A	増加

(注2) 「ボランティア」とは藤沢市食生活改善推進員と健康づくり応援団「食サポーター」をいう。

〈成果と課題〉

- ・食育に関心を持っている市民の割合は、策定時より減少しています。性別で見ると、女性に比べ男性の関心が低く、特に20～39歳、40～64歳の男性で「関心がある」人の割合が低くなっています。今後は、働き盛りの男性など、関心が低い層の意識の向上と行動に繋がるよう、関係機関が連携し、普及啓発等の取組が必要です。
- ・食育の推進に関するボランティア数は策定時より増加しています。引き続き、地域で重要な役割を果たしているボランティアの活動支援を行うことが必要です。

目標3 食文化や食べ物を大切に作る気持ちを育てる

指標項目	対象者	現状値 (H25年度)	最終評価 (R1年度)		目標値 (R1年度)
			実績値	達成状況	
⑩教育ファームに取り組む小中学校・特別支援学級を増やす		47.3%	32.7%	C	増加
⑪市民が農水産物を気軽に体験できる機会を増やす		2,569人/年	1,667人/年	C	増加
⑫学校及び保育園で「湘南藤沢産」の農水産物・食品の利用を増やす	小学校 保育園	33品目 10品目	40品目 18品目	A A	維持 15品目
⑬学校給食の残食率を減らす		8.7%	6.2%	A	減少
⑭食に関する年間計画を策定している学校の割合		100%	100%	A	毎年見直す
⑮なるべく地場産を購入する市民を増やす	20～39歳	11.8%	5.4%	C	30%
	40～64歳	20.2%	11.9%	C	
	65歳以上	22.6%	20.9%	C	

〈成果と課題〉

- ・学校及び保育園での藤沢産農水産物等の利用については、目標を達成しています。モデル校の設定により、小学校周辺で生産されている農産物を給食に供給する仕組みを構築し、学校と生産者との連携を図ることができました。給食は地場産物などを知り、実際に食べる機会として重要であるため、引き続き取り組んでいくことが必要です。
- ・なるべく地場産を購入するようにしている市民の割合は、策定時より減少しています。地産地消の推進に関する条例や地産地消推進計画に基づき、関係機関が連携し、幅広い世代の市民が地場産の食材を購入しやすいよう仕組みづくりを進めていくことが必要です。

目標4 健康な生活を送るための食環境をつくる

指標項目	対象者	現状値 (H25年度)	最終評価 (R1年度)		目標値 (R1年度)
			実績値	達成状況	
⑯ヘルシーメニューを提供する事業所を増やす		70.7%	43.6%	C	増加
⑰栄養成分表示(注3)をしている特定給食施設(注4)を増やす		80.7%	96.5%	A	増加
⑱健康づくり応援団「協力店」(注5)を増やす		38店舗	91店舗	A	増加

(注3) エネルギー、たんぱく質、脂質、食塩相当量の4項目を表示。

(注4) 特定かつ多数のものに対して継続的に食事を供給する施設。

(注5) 市内の健康づくりをすすめる飲食店・惣菜店(店内全面禁煙、栄養成分表示、ヘルシーメニューの提供など)。

〈成果と課題〉

- ・栄養成分表示を行っている特定給食施設は増加しましたが、ヘルシーメニューを提供する事業所は減少しました。給食の利用者が自らヘルシーメニューを選択し、栄養成分表示を活用することが健康増進につながるため、引き続き環境整備とともに、利用者への啓発を行っていくことが必要です。
- ・健康づくり応援団「協力店」の店舗数は、策定時より増加しましたが、市民の認知度に課題がみられました。今後もホームページ等による効果的な周知方法を検討し、外食における健康づくりができるよう、食環境整備を行っていくことが必要です。

指標の出典

- 【①】 国民健康・栄養調査（平成 23 年度）
- 【② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑮】 藤沢市健康増進計画及び食育推進計画アンケート調査（平成 24 年度・平成 30 年度調査）
- 【⑨ ⑪ ⑯ ⑰ ⑱】 健康増進課調べ（平成 24 年度・平成 30 年度実績）
- 【⑩ ⑭】 教育指導課調べ（平成 24 年度・平成 30 年度実績）
- 【⑫】 学校給食課調べ（平成 24 年度・令和元年度実績）／
保育課調べ（平成 24 年度・平成 30 年度実績）
- 【⑬】 学校給食課調べ（平成 24 年度・平成 30 年度実績）

2 前計画の施策体系

第2次藤沢市食育推進計画の体系

大目標

市民一人ひとりが生涯健康であるために、自分に適した食生活を送る力を育む

重点目標

具体的な目標

- (1)生活習慣病の予防及び改善につながる食育を推進する
- (2)若い世代へ食育を推進する
- (3)食事を通して人と人とのつながる食育を推進する

- 目標1 健康に生活するための食習慣をつくる
- 目標2 市民が主役となって食育を推進する
- 目標3 食文化や食文化を大切にしている気持ちを育てる
- 目標4 健康な生活を送るための食環境をつくる

施策展開

【施策】

(1) 家庭における食育の推進
保護者や子どもの食に対する関心と理解を深め、健全な食習慣の確立を図る。

(2) 学校、保育所等における食育の推進
学校・幼稚園・保育所などにおいて、魅力ある食育を推進し、子どもの健全な食生活の実現と健全な心身の成長を図る。

(3) 地域における食生活改善のための取組の推進
地域において栄養・食習慣・食料の消費に関する食生活の改善を推進し、生活習慣病を予防する。

(4) 食育推進運動の展開
市民・教育関係者・農業者・漁業者・食品関連事業者等、民間団体の自発的な食育活動の展開を図る。

(5) 生産者と消費者の交流の促進及び環境と調和のとれた農水産業の活性化
生産者・消費者との交流を進めて信頼関係を構築すると共に、農水産業の持つ多面的機能や環境への理解を深め、都市と農水産業との共生を図る。

(6) 食文化の継承、展開のための活動の支援
伝統的な行事や作法と結びつけた食文化・地域の特色ある食文化等、伝統ある優れた食文化の継承を図る。

(7) 食品の安全性、栄養、その他食に関する調査、研究、情報提供
食品の安全性や栄養に関する膨大な情報が提供される中、市民が正しい情報を適切に選別し活用する力を養えるよう、調査研究や情報提供を進める等の取組を進める。

【具体的な取り組み】

■望ましい生活のリズムや食習慣を習得する
■学校との連携
■保育園との連携

■学校における食育の推進
■保育園における食育の推進

■生活習慣病等の予防対策
■食に関する普及啓発
■食環境の整備

■関係者との連携による推進
■食育の市民への浸透を図る

■農水産業に関する理解を深める
■市場の役割や流通のしくみを理解する
■地場産物に触れる機会を提供する

■伝統ある優れた食文化の継承を推進

■食の安全性に関すること
■栄養に関すること